



室伏 里美さん
神奈川県湯河原温泉
旅館グリーン荘

神奈川県湯河原温泉
旅館グリーン荘の室伏
里美です。

日本各地で地震や集中豪雨、台風などの自然災害が相次ぐ中、旅館を経営する者として「災害はいつ、どこで起きてもおかしくない」ということを改めて実感しています。

先曰、J K K (全旅

「もしも」

に備える宿づくり

られることが多くあり、必要なものは更新しました。日々の営業に追われ、し、必要なものは更新していかねばならぬと感じています。



をもってJ K K
全旅連・女性経営者の会
コラム&レポート
Vol.204

連女性経営者の会」で過去に開催された防災に関するセミナーを再視聴しました。以前にも学んだ内容でしたが、改めて聞いてみると「自衛では本当に十分な備えができていない」ということを改めて実感しています。

雨による浸水や土砂災害、停電、断水など、地域の特性に応じた想定が必要です。非常食や飲料水、簡易トイレ、救急用品などの備蓄に加え、非常用電源や通信手段、避難経路の確認も欠かせません。また、保険についても建物や設備だけでなく、災害による休業など事業継続に関わるリスクまで含め、補償内容を定期的に見直すことが大切です。そして、どれだけ準備をしても、実際に動けなければ意味がありません。夜間や少人数での勤務時なども想定し、スタッフ全員が迷わず行動できるよう、訓練を重ねる必要があります。

防災対策は「特別な仕事」ではなく、宿営み、お客様をお預かりする私たちの基本的な責任です。

今回、J K Kのセミナー再視聴を一つのきっかけとして、自宿の備えを見直し、地域や同業の皆さまとも知恵を共有しながら「もしも」の時にはお客様と従業員を守る宿づくりを進めていきたいと思ひます。